

令和5年度第3回今治市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時 令和5年11月21日(火) 13:30~15:00

場 所 今治市役所 市民会館 大会議室

出席者

・委員：土居 忠博，播田 昌亮(代理)，松本 真一，川田 卓哉，佐津間 英樹，
平野 勇夫，谷口 政賀津，赤尾 宣宏，唐谷 力紀(代理)，坂井 克巳，
堀田 大樹，今井 博紀，丹治 靖代，三好 哲，新居田 昌彦，山崎 昭二
渡辺 久人，松村 暢彦，一色 利彦，松浦 和仁

(欠席) 村上 友則，砂田 篤志，清水 駿，阿部 克也，村上 恵子，菊池 勝二

・事務局：八木地域振興部長

地域振興部 地域政策局 地域振興課

白石局長(兼)課長，鳥生課長補佐、鴨川課長補佐(兼)係長、八木主査

1. 開会

地域振興部長：

定刻となりましたので、ただ今から令和5年度第3回今治市地域公共交通活性化協議会を開催させていただきます。私、今治市地域振興部長の八木と申します。お手元に配布いたしております会次第に従いまして進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、しまなみ商工会の村上委員、瀬戸内運輸労働組合の砂田委員、全日本海員組合愛媛支部の清水委員、今治市連合自治会の阿部委員、今治市連合婦人会の村上委員、四国運輸局愛媛運輸支局の菊地委員が都合により欠席となっております。

また、四国旅客鉄道株式会社窪委員の代理で播田課長が、四国地方整備局松山河川国道事務所森倉委員の代理で唐谷係長がご出席されております。

本日は委員総数の過半数のご出席をいただいておりますので、本会が会議として成立しておりますことをご報告いたします。なお、本会は原則公開で行うこととしておりますので、本日もそのようにさせていただきますと思います。

お手元の資料については、次第にあります配布資料のとおりでございます。不足がございましたらお知らせいただけたらと存じます。また、今治市公共交通マップの最新版が出来ましたので、皆さまにお配りしております。後ほど、ご覧いただけたらと思います。

続きまして、開会にあたり、今治市副市長土居忠博よりご挨拶を申し上げます。

2. あいさつ

土居会長：

皆さんこんにちは。会長を務めさせていただきます土居でございます。本日は皆さん

お忙しいところ、副会長であります愛媛大学の松村先生はじめ、皆さん方お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

ご案内のように、現在、交通事業者大変深刻な状況を迎えております。特に運転手不足というのが非常に問題となっておりますけども、これにつきましては、来年の4月から、拘束時間の変更されるでありますとか、或いは労働時間の上限制限がより厳格になるとか、そういう問題がありまして、今後どうなるのかなど。非常に我々も地域交通どうなっていくのかと心配な状況でございます。

身近な例で言いますと、松山の坊ちゃん列車も運転士さんの不足等でしばらくお休みするという話も新聞を賑わしていますけども、そういう形で、観光面はともかくなんですけども、今治の大事なその地域交通の部分というのが、そういう人手不足で傷んでくるというのは非常に心を痛めております。

また一方で、物価高騰、燃料費の高騰によりまして、コスト増というのが非常に厳しくなってきたということもお聞きしておりますので、これまた経営環境、大変厳しいものがあるかと思えます。本市におきましても、この公共交通非常に大変な状況であります。その中で新しい取組として、これまでも皆さん方に色々お諮りをし、実施してきておりますけども、今年の10月から瀬戸内運輸さんが玉川地域を運行してました竜岡線、そして神子森線が廃止されましたことに伴いまして、デマンド型の乗合タクシーを玉川においても運行をしていただいたりしております。

また、前々からお話に出ております市内の中心部におきましては、mobiの実証運行をずっとしておりまして、この11月1日からは新たにラッピング車両も追加させていただきまして、3台の体制で運行を行っております。内2台の車内には、タッチ式のデジタルサイネージも設置しております。この辺りも将来の収入源、広告収入源になるんじゃないかなというふうな期待もしておりますけども、こういう形で利用者にまちの情報を提供するコミュニティチャンネル、テストマーケティングという形で進んでおりますけども、こういう新たな取組も非常に期待をしておりますところでございます。

こうした地域の大切な足の確保、様々なこういう取組に対しまして、今回第3回の議題といたしまして、報告、或いは協議の事項がございます。次第にもありますように、まず一つがmobiの中間報告、そして実証実験の継続についての協議でございます。二つ目が、地域公共交通計画の更新に係る基礎調査業務の実施内容についての報告でございます。そして三つ目が、乗合タクシーの実績報告。朝倉、そして吉海、或いはチョイソコ、そして玉川、という形で行われておりますけども、こちらの実績報告もさせていただけたらと思います。

人口がどんどん減っていく。これも全国的なんですけども、これは避けられない状況にありますけども、よく言われますのが、単に縮小していくのではなくて、賢く縮むという。ある意味そのスマートなまちづくり、賢く縮んで、しかもその成長は維持していく。そういう今治づくりに今後シフトしていければと思いますので、そのためにはこの地域公共交通、大変大切でございます。しっかりと議論をしていただいて、よりよい道を探っていきたいと思っております。

で、よろしく願いをいたしまして冒頭の挨拶といたします。今日は2時間弱の予定になります。よろしく願いいたします。

地域振興部長：

ありがとうございました。続きまして、次第3、議事に移りたいと思います。なお、ご発言の際には、マイクをお持ちいたしますので、マイクを通しての発言をお願いいたします。ここからは進行を、会長の土居副市長をお願いいたします。

3. 議事

(議案1) 今治市内における予約型乗合タクシー実証実験継続について

土居会長：

それでは議案の第1号、今治市内における予約型乗合タクシー実証実験継続についてを議題といたします。

まず初めに、今治市における相乗り交通サービス mobi ですけれども、実証実験の中間報告を説明いただいた後に、議案の説明をさせていただきたいと存じます。それでは、まずは mobi を運営していただいておりますコミュニティ・モビリティ株式会社の大西様ご説明をよろしくお願いいたします。

大西様 (コミュニティ・モビリティ株式会社)：

改めまして、私、今年の10月からコミュニティ・モビリティの今治の担当マネージャーになりました大西と申します。本日は改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは皆さま、お手元資料1と2と書かれた資料をご覧くださいと思います。

では、mobi の中間報告とさせていただきます。1枚めくっていただきまして、右下番号2ページですね、本日の報告事項大きく4点、ご報告をさせていただければと思います。1点目が運行実績、2点目がこれまでの主な取組、今後の取組、3番目が運賃の改定案について、4点目が来期の実証の継続について、というこの4点をご報告をさせていただきます。

運行実績のご報告をまずさせていただきます。まず、右下4ページになります。こちらが開始してからの延べ利用人数の推移になります。今年の2月から運行開始をさせていただきまして、もともと132名の1ヶ月間のご利用であったんですけども、おかげさまで徐々にご利用者様は増えておりまして、直近ですとおおよそ2500名前後で直近数ヶ月のところはご利用者様が推移をしております。8月をピークに、9月と10月が若干ご利用者様が減ってるんですけども、こちら8月末までキャンペーンを実施しておりまして、9月からはキャンペーンが終了したと、その影響に伴いまして、若干ご利用者様が減少してるという実績になっております。

次のページ、5ページになります。こちらがご利用いただいている方のうち、どういったご利用プランでご利用いただいているか、また、どういったご年齢の方にご利用いただいているかの実績になります。まず左手のグラフ、こちらが利用プランの割合というものになるんです

けども、ご利用いただいている方のおよそ 58%が、定額乗り放題のサブスクリプションをご利用いただいています。回数券プランがおおよそ 6%で、1回 300 円の都度払い、こちらが約 36%のお客様でご利用いただいているというところになります。そして右手、利用の年齢割合なんですけれども、最も多い年齢が 40 代でこちらが 25%で、およそ 4分の 1 を占めるというところになっています。続いて 50 代、そして 20 代という形でご利用者様の年齢層が多い順に続いて参ります。そして 60 代以上のいわゆる高齢層の方々が、こちらで 60 代、70 代、80 代、90 代足しまして、約 25%ご利用がありまして、こちら 60 代以上の方も 4 人に 1 人の方がご利用いただいているというところになっております。

次のページめくっていただきまして、6 ページになります。mobi はアプリもしくはお電話でご予約いただくことができるんですけども、それぞれのご予約の数と割合を月別に示しているものになります。運行開始当初の 2 月はですね、アプリで約 96%、お電話で 4%、合計で 100%の方というところになるんですけども、運行開始当初はほぼアプリでご利用いただいております。ですが直近ですね、一番右側、10 月になりますとこちら、アプリでご利用いただいている方が約 80%、そして、お電話の方が約 20%というところになりまして、お電話でご利用いただいている方の人数、そして割合も増えてきているというところになっています。こちら先ほど 4 人に 1 人が 60 代以上の方と申し上げたんですけども、その特にご高齢の方のご利用の割合がこの電話の数が増えていることも一つ表しているのかなというふうに思っております。

次の 7 ページ、こちらが時間帯別のそれぞれの利用割合になります。ブルーのグラフが平日、オレンジが休日になります。こちらを見ますと、最もご利用者様が集中する時間帯としましては、午前中の 10 時からお昼の 12 時あたり、これは土日でも平日でも変わらず、大体このお昼前の時間にご利用は集中しているというところになっております。一方で最も利用が少ない割合時間でいきますと、およそ夜の 18 時以降ですね、こちらの時間帯から徐々にご利用者様が減るというところにはなっております。我々としてはもっと、ご利用いただく方がどんどん増えていただきたいと思っておりますので、特に夜の時間帯、ご利用者様がより増えていただくために、地域の飲食店様と連携したりだとか、そういったことを行いまして、夜の少ない時間帯も多くの方にご利用いただきたいと思っております。

次 8 ページになります。ここはアンケート調査の結果でございます。mobi をどういった目的でご利用いただいているか、アンケートをお客様にとっております。まず上位三つなんですけれども、最も多いご利用目的としては買い物、続いて外食、そして三つ目が通勤、会社まで直行という形ですね。こういった利用で多くご利用いただいております。一方で、今 mobi を運行しているエリア内には、高校だったり、あと大学だったり複数存在していて、また今、今治は観光客もどんどん増えてらっしゃる中で、通学ですとか、あと観光地での移動手段といったところが、やはりまだご利用の目的として少ないな、というふうに我々としては考えておりますので、しっかりこの通学だったり、観光での mobi のご利用をですね、こういったところもしっかり頑張ってお客様に使っていただくようにしていきたいなというふうに思っております。

続きまして9ページ、こちらが乗合率のデータになります。こちらですね、おおよそこの折れ線グラフのここになるんですけども、概ね25%前後で推移をしております。なので、おおよそ4回に1回は乗合になっているというところがございます、こちらの乗合率に関しましては、もう少しご利用者様が増えたり、もしくは、しっかりシステムだっりの効率化を行うことによって、乗合率を高めて、もっと運行の効率を上げてくことができるかなというふうにも考えておりますので、こちらについても乗合率を高めていけるように頑張っていきたいなというふうに思っております。

次のページ、10ページになります。こちらが乗車が多いトップ10、また降車が多いトップ10をそれぞれ記載させていただいております。まず左手が乗車場所トップ10ということでございまして、一番多いのがイオンモール様、続いてJR今治駅、そしてフジグラン様というふうに続いていきます。その他、岡山理科大学様だったり、三木病院様、そういったところが続いている状況になります。また、降車場所に関しましても、大きく乗車のトップ10と差はなく、こちらイオンモール様、フジグラン様、また、今治の里山スタジアム、こういったところがですね、上位にきているというところがございます。トップ10の中に、基本的には商業施設だったりが多く並ぶんですけども、三木病院様ですとか、あと福祉センターのアイランド今治様もありまして、こういったところでもご高齢の方がご利用いただけているのかなというふうに考えております。

続きまして、11ページになります。こちらが今度は往來の上位10か所というところになります。どこからどこまで行ってる利用が多いか、というところを表したデータになります。こちらに関しましては、ご覧いただいたところが最も乗降が多いトップ10の往來の数というところにはなるんですけども、基本的には先ほど申し上げた乗車場所、降車場所で、どちらかが片方の乗り場もしくは降り場に当てはまっており、またもう一つ、例えば降りる場所、乗る場所に関しては、おそらくこれはお客様のご自宅であったりですとか、お客様の職場であったりですとか、そういったところでの往來が多いのかなというふうにこちらは推察をしております。

次のページをお願いいたします。12ページになります。mobiが今こちらのエリアを運行させていただいているんですけども、しっかり公共交通の活性化につなげたいと考えておまして、しっかりバスもご利用いただきたいなというふうにももちろん思っております。先ほど、往來が多かったトップ10の路線と、今路線バスが走っているデータをこちらで結合させていただきました。こちら色がついているところがバスの路線になるんですけども、直接的にmobiの往來が多いところが路線バスと重なっているというようなところは、トップ10の中からは目に見えるようなところではございませんでしたので、ここはしっかり、どちらかというバス路線と被るのではなくて、しっかりバス路線と繋ぐ役割をmobiはこれからもしっかりと果たしていきたいなというふうに考えております。

次が13ページになります。これがmobiの必要性ということで、アンケートをお客様にとらせていただいております、回答いただいた方の約97%が「今後もぜひこのエリアにmobiが必要ですよ。続けてください。」ということでお答えいただいております。右側にですね、代表的な

コメントを抜粋させていただいているんですけども、ポジティブなところでいきますと、「本当便利だと思います」「助かっています」ですとか、「mobi を使うことによって、バイトに行く機会が増えました」とか「友達と会う機会も増えました」というようなお声もいただいております。また、運行をぜひお願いしますということもいただいております。一方でお客様からのご指摘が赤色で記載もさせていただいているんですけども、やっぱり混み合う時間帯には「なかなかマッチングができない」とか「待ち時間が長いです」とか、そういったようなお声もいただいております。また、ご高齢の方が乗り降りするにはちょっとワンボックスカーだと大変だというようなお声もいただいております。ここはご高齢の方もより使いやすい環境といったところはぜひ、運行事業者様と一緒に整えていけたらなというふうにも考えております。

15 ページ目からはですね、これまでの主なご利用者様を増やすための取組をご紹介させていただければと思います。大きく3点、本日は取組をご紹介させていただければと思います。

まず、mobi のご利用者様を増やすための主な取組ということで、まず地域のコープさんだったりフジグランさんだったり出張イベントというのを行っています。これは特に最初は、お客様と対面で色々サービスのご説明だったり、アプリの使い方等をご説明することが極めて大事というふうに思っておりましたので、しっかりとこういったリアルの中で説明会、相談会をさせていただきました。また、お客様のご自宅にチラシのポスティング等も行って、周知の向上に努めたというところがございます。また、資料の真ん中にありますように、地域の方々とたくさん連携もぜひしていきたいと思っております。代表的な例として、今治夢スポーツ様との連携事例も記載させていただいております。もちろん mobi を使ってサッカーの観戦にたくさん行っていただきたいのもございますし、あとこの里山サロン、里山にありますカフェと連携してですね、mobi で行ったらスコーンが1個プレゼントで貰えるというキャンペーンもさせていただいたりですとか、あとFC今治様のサポーターの方々と、あと地域の皆さま中心に、ワークショップといったものを開催させていただきまして、色んな角度から mobi がどうあるべきか、mobi にどうあってほしいか、というところ、直接ご意見もいただいたところがございます。しっかりとこういったところをサービスに反映していく、というところがございます。

また一番右、こちら今年の11月からラッピングした車両を新たに1台増やさせていただいております。また車内でお客様の大切な移動時間にこういったサイネージをご用意させていただきまして、地域の企業様、店舗様のPRと同時に、お客様の移動体験価値が向上するような取組ということで実施をさせていただいております。

続きまして16ページになります。これは今後の取組というところにはなるんですけども、まだまだ我々やるべきことがあるというふうに自負しております。そこを今後しっかりと頑張っていきたいところをご紹介させていただければと思います。まず、mobi のご利用者様増に向けた取組ということで、マーケティングの強化、特にここは10代から30代の若年層の方々ですね、ここの利用割合がまだ正直少ないなというふうに感じておりますので、しっかりとSNSの広告を使ったりだとか、そういったところ行っていきたいなと思っております。また、連携店舗

の拡大ということで、先ほどの里山サロン様と同じような連携事例、より地域の店舗様とできるように頑張っていきたいと思っています。また、新規の機能改善ということで、mobi も今の現状のままでいいというふうには全く思っておりませんので、もっと新しい例えば、事前で予約ができる機能ですとか、アプリをもっと使いやすくする、そういったところを頑張っていきたいと思っています。

続きまして、高齢者の方のアプリの利用促進ということで、今お電話でご利用いただく方が大変増えていて、mobi のご利用が増えているのは大変有り難いんですけども、アプリでご予約いただくと良いこともやっぱりございまして、そもそも電話代がかからないですとか、あとアプリは常に mobi が今どこにいるのかっていうのを確認いただくことができますので、大体どの辺で今 mobi が運行しているのかなっていうのが分かることができます。ここはお客様にとってもメリットが多数ありますので、高齢者の方がアプリ利用ができるように、mobi の使い方説明会、そういったものを行っていきなと思っています。

また、先ほど申し上げましたとおり観光客の方にもぜひ mobi をご利用いただくように、観光客の方の訴求も頑張っていきたいと思っています。

また、今 mobi のご利用者様が増える以外の取組としてですね、まず先ほどあったサイネージに掲載いただく企業様もどんどん増えていただきたいなと思っていますので、ここをしっかりと営業頑張っていきたいなというふうにも思っています。

また、その他の新たな収入源ということで、mobi も運賃収入だけではなく、色々な収入源を確保していける可能性もあると思っていますので、ここは特に地域の企業様と一緒に連携しながら、しっかり新しい収入も頑張っていきたいなというふうに考えております。

続きまして 17、18 ページになります。こちら運賃の改定案というところになります。約 1 年、実施させていただきまして、運賃の課題ですとか、事業の課題みたいところが見えてきているところございまして、今回運賃の改定をさせていただけないかなというふうに思っています。現状は左側の表で、1 回利用ですと 300 円、お子様はその半額の 150 円と。定額乗り放題に関しましては、大人が 5000 円で乗り放題、ご家族はどなたでも 500 円で乗り放題と。回数券に関しましては、8 回券と 5 回券というものを現在提供させていただいております。この度、やはり原油高ですとか、労働環境改善等々もございまして、そういった影響も鑑みて、右側、大人の方は 1 回 400 円、お子様はその半額の 200 円と。乗り放題に関しましては、こちら 6000 円で、家族会員の方は小学生以下の方に限定をさせていただきまして、1000 円というふうにさせていただきたいと思っています。また、乗り放題、新たに 1 日乗り放題というものを追加させていただきたいと思っています。こちら 1200 円ございまして、先ほどあった観光客の方にやっぱり mobi もご利用いただきたいと思っていますので、こちらの周遊券という形で、ぜひご利用いただきたいと思っています。また、回数券につきましては、現在 8 回と 5 回しかないんですけども、新たに 11 回と、3 回といったものも付け加えさせていただければと思います。やはり乗り放題ほど乗らないけれども 8 回以上乗る、10 回ぐらい乗る方だったりとか、あと 2、3 回乗る方にはこの回数券で乗っていただいた方がお得というところになります。

すので、そういったところを新たに追加させていただきたいと思っております。また、オプション料金ということで、これはまだまだ検討中の段階ではあるんですけども、先ほど言ったとおり、今後新機能ですとか、新しい機能改善というのをどんどん図っていきたいと思っております。例えば、事前予約される方には、月額 1000 円いただいたりですとか、1 回事前予約をご利用いただく毎に 100 円いただいたりですとか、一応そういった形でより mobi が便利で使いやすくなるようにこちらの料金といったところも今現在検討中でございます。現在まだ運賃の案というところにはなるんですけども、新運賃に関しましては、来年 2024 年の 1 月の中旬を目処に、こちら新運賃としてできないかなというところで今検討しておりますので、現状ご報告というふうにさせていただければと存じます。

次 19 ページです。こちら事業収支ということで、本日も説明させていただければと思います。あくまでこちらのグラフは長さとかはイメージになりますので、正確な今の状況を表している長さではないということをご承知おきいただければと思います。現在はやはり、運賃収入のみの状況でございますので、やっぱりこれだけだと正直厳しいという状況でございます。なので、先ほど申し上げましたとおり、しっかり運賃以外の収入、運賃は先ほど改定させていただいて少し改善をさせていただくのと、あとマーケティングをまた頑張ってくださいね、ご利用者様を増やしていけるように頑張るというところでございます。また、先ほど企業様とのご連携だったり、サイネージだったり、こういったところをしっかりと活用して、広告収入といったものを増やしていき、その他、例えば今観光の補助金とか国交省様から出てたりもしますけれども、そういったものも活用させていただきながら、しっかりと採算ラインに乗せて、持続可能な交通サービスとしてやらせていただきたいというふうに考えております。

最後になります。21 ページに来期の実証継続についてということで記載させていただいております。来年の 1 月をもってですね、mobi の 1 年目が終了しまして、2 月から 2 年目ということになります。2 年目もですね、ぜひこちらの mobi 実証運行を継続させていただきたいというふうに考えております。こちら 1 年目に続き、しっかり誰もが使いやすく、地方生活を支えるオンデマンド交通としてしっかりと地域の移動総量を増やすことに貢献させていただきたいと思っておりますし、また、1 年目でまだまだやり残してる宿題があるというふうに自覚もしておりますので、ここをしっかりとこれから 2 年目も取組ませていただきたいと思っております。実証期間は来年の 2 月からまた 1 年間で、運行日時ですとか、運行エリア、そういったところは 1 年目と変更なく実施をさせていただきたいというふうに考えております。

一方的にご説明してしまいました、ご報告以上となります。よろしく願いいたします。

土居会長：

ありがとうございました。非常に地域の皆さんにも頼りにされてる mobi なんですけども、来年 2 月から 2 年目に入るということで今ご説明ありました。ちょっとこれ拝見してて、サブスクリプションで 6 割近い方が利用されてるっていうのは非常にあぁ、そういう使い方なんだなというふうに思ったんですけども、皆さんこの件に関していろいろご質問があらうかと思うん

ですけれども、この後この mobi に関して事務局の方からも説明がありますので、そちらを先にさせていただきます。そしてまとめてご質問をお受けしたいと思いますので、まず事務局の方から続きの説明をお願いいたします。

事務局（白石地域政策局長(兼)課長）：

それでは、今治市内における予約型乗合タクシー実証実験継続について説明させていただきます。資料の 1-1、今治市内における予約型乗合タクシー実証実験継続について案をご覧ください。

mobi の実証実験につきましては、mobi を運行するタクシー事業者、河南タクシー有限会社、有限会社さわやか、有限会社延喜タクシー様が、道路運送法第 21 条の許可のもと運行をしておりますが、来年の 1 月末で許可の期限を迎えることから今治市から mobi を運行するタクシー事業者様への実証実験継続要請をお願いするものでございます。この道路運送法第 21 条の許可による実証実験は、地方公共団体である今治市からの要請がある場合で、当初から 1 年以上の計画がある運行について、1 年以上 3 年程度の期間を認めることとなっており、引き続きまして 2 年目を運行する場合においても、運輸局へ実証実験に係る継続申請を行いまして、許可を得ることが必要となります。そのため、今治市地域公共交通活性化協議会から今治市へ mobi 実証実験継続を要請するものです。

説明は以上でございます。

土居会長：

ありがとうございました。それでは、ただいま説明がありました件につきまして、コミュニティ・モビリティさんに対して或いは市の担当に対して、ご質問があればお願いいたします。

山崎委員：

観光協会の立場からお尋ねするんですけれども、旅行者の方の特に、高齢者の方とか足が悪い方、ご利用をいただいたら旅行者の方も増えるのかなと思うんですけれども、一つお尋ねしたいのが、利用割合の時間帯の表はあるんですけれども、平日と休日でいったら、利用割合がどれくらいか、平日休日ですすね、休日がもし少ないのであれば、旅行者の方も利用はしやすいのかなと思うのが一つと。それと、今範囲的には旧市街地の範囲だと思うんですけど、旅行者の利用を考えると、例えば、サンライズ糸山であったり、来島海峡展望館ぐらいまでちょっと足を延ばすとか、あと今治城を含めて、何点か観光地を周遊するのかとか、そういうご計画があるのかどうか、それらをお答えできる範囲内をお願いいたします。

大西様（コミュニティ・モビリティ株式会社）：

ご質問いただきましてありがとうございます。まず一つ目の平日と土日の人数の違いというところなんですけれども、平日に比べて大体土日が平日の 80% ぐらいのご利用者様になります。

これは概ね、もちろんなにか土曜日、日曜日イベントがあったりしたら変わったりするんですけども、概ねそのような状況でございまして、特に土曜日に比べて日曜日の方がちょっと少なくなる傾向はございます。ただ日曜日にサッカーの試合が里山スタジアムの方でもありますと、平日とほぼ変わらないぐらいのご利用者様にご利用いただいたりというところもございしますので、ここはやはりそういったイベント事ですか、季節的によって変わるんですけども、大体土日は、平日の80%ぐらいかなというところでございます。

また2点目の観光地への範囲というところであるんですけども、現状、今このエリアでもこれ以上広げてしまうとなかなか待ち時間が長くなってしまったりですか色々ございますので、一概に現在エリアに関しては申し上げるところではないんですけども、まずはしっかりエリア内の観光地を観光客の方に使っていただけるように観光スポットのPRをアプリでしっかりさせていただくとか、そういった取組を行いまして、まずは今のエリア内を周知していただけるように頑張らせていただきたいというふうに思っております。以上です。

土居会長：

ありがとうございます。私もちょっとその辺り気になって、説明でありました1日乗り放題で1200円ってなった時に、いま話ありましたように、糸山に行ってみたりっていうmobiのエリアを越えていってしまう場合に、そうなるとバスであるとか、タクシーであるとか、本業とちょっとバッティングする部分が増えてくるな、その辺どうなのかなと思ってたんですけど、一応そのmobiのエリア内での1日乗り放題だということでもいいんですか。

大西様（コミュニティ・モビリティ株式会社）：

おっしゃるとおりでございます。

土居会長：

ちょっとその辺の話も含めまして、今も私の方から申し上げたんですけども、このmobiの運行とタクシーの運行との関係といいますか、タクシー協会の平野会長さんにお伺いしたいんですけども。会長さんとしてタクシーの業界とmobiの今後の継続の関係で、どんなもんなのかお伺いできますでしょうか。

平野委員：

実は、こういうふうな正式な会ができる2年ぐらい前だったかな、その頃からタクシーはもう10年もしたら本当に半分ぐらいになりますよと言っていたんですよ。その中で土居会長さんが、このバス系統が撤退したらバスの方をタクシーの方で手伝っていただけないでしょうかと。それは、私どもの会社も60数年経っておりますけど、助けてくれた人がおるからやはり援助しますと言ったんですけど。今現在では、今治市にタクシーが258台ぐらいあるのかな、その中で、本当に走っているのは100台以下です。というのが、今のタクシー乗務員の年齢で一

番多いのが、70歳～74歳。そういう人がもうほとんどを占めている。ということは、本当にこれから時間が経てば、乗務員がいなくなると。いなくなったら私どもの会社もそうなのですが、その従業員を半年でも1年でも長くいてもらうために、そういうドライバーに少しでもこのmobiを運転していただいて、今治市内の方に出てもらおうというのが一つの狙いで、それが私らの本当の願いなんです。これでmobiがもう少しお金がよかったら非常に有難いんですけど。以上でございます。

土居会長：

今回お話ありましたように、やっぱり新しいニーズを掘り起こすという面では非常にmobiさんの役割も大きいんですけども、一方で収支の方がまだまだということで、これ会社ですから、その収支が十分とれないままだとせつかく市民に定着しても、その定着した頃にやっぱり赤字がずっと積み重なるんで撤退しますっていう話になると、それが一番なんか恐ろしい感じがするんですけど、そのあたりどんな想定ですか。

大西様（コミュニティ・モビリティ株式会社）：

そうですね、19ページのところで今回もう赤裸々に出させてもいただいたんですけども、ここはですね、16ページのところまだまだやりきれてないところというところでもご説明をさせていただいておりますので、本当に5000円だったり、300円の運賃収入のみというところになっておりますので、ぜひ運賃の改定もこの度させていただき、そして先ほどのサイネージだったりとか、またアプリでもまだ広告とか出せる余地がありまして、ここまでは出してないんですけども、しっかりそういったところで地域の店舗様と連携してPRをさせていただくことで、広告費をあげていきたいと考えています。

また、mobiを今どんどん新規の開発もしておりますので、そこで新しい使い方での追加の料金をいただいたりとかございますので、しっかりそういったところでまだまだ本当に出来てないところで、収益が見込める可能性が多分にありますので、しっかりと民間企業として黒字化させて、今治市にぜひ残らせていただきたいというふうに思っています。

土居会長：

先ほどmobiさんの説明の中にバス路線と繋ぐというような話がありました。バス路線を邪魔するのではなくて、逆にバス路線に繋いでいくようなというお話ありましたが、川田さん、その辺りバス事業者さんとして、どういう感じで受けとめられてますでしょうか。

川田委員：

バスへの影響度というような形で考えますと、コロナ前と比べますと現在ですね、収入の切り口と言いますと、最悪の期は脱した感じはありますけれども、未だコロナ前の2019年度と比べますと8割程度までしか回復してませんし、もうちょっとこれ以上の回復はひよっとしてないのかなというところでもありますし、その戻りが遅いのはmobiのせいということではないと思

うんですけども、当然ご存知のとおり 10 月に私ども今治市内 3 路線廃止しまして、その分の減収も当然ありますので、我々の収入における mobi の影響というのは計り知れん部分であります。ただ、日頃バスを運転しております乗務員に聞き取りしますと、感覚でいうとやっぱりイオンモール今治でのお客様がちょっと減ったかなという意見は出ております。それ以外は特にですね、このお客さんが急にいなくなったとかですね、そこまでの例は聞き取っておりません。以上でございます。

土居会長：

ありがとうございました。この辺りは綺麗に切り分けることがなかなか難しいので、トータルでやっぱり考えないといけないのかなというのは思いますけども。ほかにどなたかご質問等ございますでしょうか。

松村委員：

ちょっと質問したいんですけども、予約方法と種別ですね、サブスクであったりとかその関係性ってのはどうでしょうか。

大西様（コミュニティ・モビリティ株式会社）：

やはりアプリからのご予約の方が、サブスク乗り放題でのご利用が多い傾向にございます。一方で電話利用での方々は 1 回 300 円でご利用される傾向が多いというところでございます。

松村委員：

とすると、基本的に電話での予約を下げつつ、それからアプリ、サブスクでの利用を増やしたいというふうに考えたときに、料金改定の方で 300 円から 400 円というお話で、5000 円から 6000 円というお話でしたが、我々がコントロールできるのはその料金しかおそらくコントロールできないので、だとすると、例えば今 300 円のところを 400 円にするとか、その分 5000 円のところは 6000 円に上げざるを得ないと思いますが、その家族のところを 500 円のまま据置きにするであったりとか、何か政策への意図っていうんですかね、そういうようなことを考えてもいいのかなというふうに思いました。ただし、高齢者の方が高い料金で乗り続けるってのは大変なことですので、そういう意味ではそのアプリでの予約っていうことについてですね、かなり手取り足取りといたしましょうか、そういうふうな教室であったりとか、特に乗車されてる方に、次はどういうふうにアプリを使って予約すればいいのかっていうのをお教えするような、何かそのチラシであったりとか、そういうようなものを用意するってのはあるかなと。そうすることによって、そのアプリの利用者の割合ってのを元に戻していく。電話の対応者をオペレーターを維持していくというような形ができないかなというのが 1 点です。

それともう一つはアンケートで、非常にユニークなアンケートを取られて素晴らしいと思いますけども、先ほどから会長がおっしゃっているとおりですね、地域全体での動きってのを増

やしていきたいというふうなことを考えると、mobi を使われる前と現在と比較して、車の利用ですね、送迎含むということで増減を聞いたりとか、あとは路線バスの利用頻度の増減を聞いたりとか、そういうようなアンケートの項目を増やすことによって、我々の懸念ってのを払拭するというような部分もあるのかなということと、それともう1点最後ですが、せっかく大学さんがあるので、前のこの会議でもお話をしましたが、ぜひですね、大学の入学手続きの送付をしたいと思いますけども、その中に mobi であったりとか、それから公共交通全体の話もそうですが、そういうような利用が、こういうふうなサブスクであるよっていうような情報を入れることによってですね、下宿をこのエリアで探そうとか、アルバイト先をこのエリアの中で探そうというようなことになると思いますし、おそらく10代、20代の学生はほとんどアプリになるでしょうから、真水でその利用者を増やしていくっていうこともあるんじゃないかなと思うので、ぜひそういうような形での取組をすることによって、おそらく2年目の収支の改善であったりとか、目指してるような予約の形態であったりとかになっていくんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

大西様（コミュニティ・モビリティ株式会社）：

ありがとうございました。今ご指摘いただいたところはぜひ次回アンケートに反映させていただいたり、データを是非お出しさせていただければと思っております。またおっしゃっていただいた特に大学さん、学校さんとの連携もですね、一度6月にエリアが一つ大きくなったタイミングで明德学園さんだったり、加計学園さんにお邪魔させていただいて、全生徒様に一度周知いただいてですね、そこから通学で使ってますとかっていう方も出てきましたので、今おっしゃっていただいたように、入学の時に皆様についているのが抜けておりましたので、ぜひ大学様とも連携して、しっかり多くの方に使っていただけるようにしたいと思います。

土居会長：

ありがとうございます。あとついでに言わせてもらおうと、子供の送迎っていうのがまだまだ少ないんですけども、多分塾の送り迎えとかっていうのを今親御さんがされてるのを、もうサブスクにしてしまうと非常にその辺の負担が減るのかなというお話で、塾に言ったらいいのか、どこに言ったらいいのか、またその辺もちょっと工夫していただくと利用者ももっと増えるのかなという気もします。

それ以外で何かご質問、ご意見ありますでしょうか。

一色委員：

私の方で気になることがあって、ちょっと教えていただきたいことがあるんですけども、気になってた一つ目がバスへの影響で、それは先ほどお伺いしたところですので、あまりエリアも被ってないというような絵もありましたけれども、今後どうなるのかちょっと分かりませんが、ぜひバスと共存できるような形にさせていただけたらなというのが一つ。あともう一

つがタクシーの影響なんですけども、資料でいうと7ページ目、利用時間帯の話があって、大体平日休日とも10時台が多くてっていう話があるんですけども、大体概ね利用が集中する時間というのが、通常の既存のタクシーでもこの時間がかまらないうちのものもあるし、mobiについても利用が多いということになってるようなんですけども、既存のタクシーがかまらないうちの人たちがこっちに流れてるっていうのであればそれもありなのかなと思ったりもするんですけど、既存のタクシーとmobiと両方をタクシー会社さん運行するようになるんですけど、その本業のタクシーへの影響っていうのはあるのかなっていうのはちょっと気になったところで、教えていただけたらと思います。

あともう一つですね、運賃改定の話が出てきてるんですけども、これご説明の中に原油高等もあって運賃を上げたいというお話があったかと思うんですけども、この運賃改定によってですね、厳しい状況にあるタクシー事業者さんへの何かメリットと申しますか、そういったものって何かあるのかなあというふうな、先ほど平野委員の方からももう少し収入がよかったらいいなというお話もありましたが、そういった何かタクシー会社さんへのいいことっていうのはあるのかなっていうのを教えていただけたらと思います。

あと最後に細かい話になりますが、資料の18ページにある運賃改定案ですけれども、この中で具体的な数字が入っているものについてはこのとおりなのかなと思うのですが、最後にあるオプション料金ですね、これについては検討中というふうになってますけど、これについては検討して1月中旬の導入を目指すということなのかなと。もしそれであれば、ここのオプション料金についてまた協議会なりですね、ここのところをどうするっていうのを決める必要があるんじゃないのかなと思うんですけど、その辺についてまたこれはスケジュール的なのは事務局なのかもしれないですけど、教えていただけたらというふうに思います。以上です。

土居会長：

ありがとうございます。色々いただきましたけどまずは何からいきましょうか。mobiさんが答えられる部分いきますか。

大西様（コミュニティ・モビリティ株式会社）：

そうですね、まず運賃のところなんですけれども、今運行いただいている事業者様へのいわゆるメリットはですね、まさに今色々と考えさせていただいてまして、これからぜひ色々と運行事業者様とお話をして、何かお互いwin-winになれるように、運賃だけではなくて、先ほどの広告のところも踏まえてですね、総じてどういったお互いがwin-winの取組ができるかというところになりますので、ちょっとここはぜひ運行事業者様と一緒に考えさせていただければと思います。現時点でご回答できるものは現状ございません。

またオプション料金ですね、ここもまだ具体的な機能が確定したわけではございませんので、ちょっとまだ確定していないので、料金も今検討中という出し方をさせていただいてます。またこちらもしっかりこの協議会にお諮りをさせていただいた上で、皆さまにご意見いた

だいて、ぜひ実装というかさせていただければというふうに考えております。以上です。

土居会長：

はい、ありがとうございます。その関係はそれにして、先ほどから話出てますように、せっかく mobi を運行していただいても、地域の本当の大切な足であるバスであるとかタクシー、そちらに悪い影響というか、そちらの足を引っ張っては何にもならないんで、その辺りが一番やっぱり懸念されるとこなんですけども、もう一度改めて確認のために川田さんと平野さんところに順次、簡単でいいんですけど影響っていうか、やっぱりちょっと正直出てるよねとか、これぐらいだったら逆に相乗効果が出ていいんじゃないのとかその辺りどんな感じか。すみません、漠然とした感じなんですけどよろしいですか。

平野委員：

まず一番に、7ページにもあるようにこの時間帯をね、一番多いのはやっぱりタクシーも忙しい午前中、これは全く一緒です。そして夕方が少なくなってるでしょう、この点は、やはりタクシーの方は夜の会があるので忙しいんですよ。こここのところは言ったように mobi も乗っていただきたいと、そのように私は思うんですが。まずは車の台数が出てないですからねえ。これ、mobi にどのぐらい取られているかというのが本当に正直分からないような状態で。先ほども言っていたように、1人の乗務員でたくさんの方を運べるというのがこの mobi ですからね。それをこれから私らは狙って、それで12月の例会にも mobi の会社に協力してくれないかということも申し上げておるんですが。前渡辺社長と門田さんにも、瀬戸内さんにもこのジャンボがおるから協力してくれないかと。もうほとんどバスのお客さんも数えたことはないけど、とられてるのかも分からないけど、そうはとられてない、新しい分野の方法でやっているからということで、お願いはしてるんですよ。だからこの12月の例会にも、もう一度、全ジャンボタクシーを持っている会社にもお話をやってみようかなと思っております。

土居会長：

はい、ありがとうございます。川田さんとは改めていかがでしょうかね。

川田委員：

そうですね、今日の資料の中でこの7ページの時間帯別の利用状況、これは不思議と我々バスと被ってます。我々のバスもですね、実はあまり朝の利用がなくて、やっぱりこの9時か10時から乗り始めて、不思議なことに17時ぐらいの声を聞くとパタッとお客様が消えてしまうような、全然都市型のバスとは違うようなことで、よく似てるなと思ったんですけども。ただですね、13ページのお客様の声にありますように、私もちょっとびっくりしたんですけど、mobiさんのワンボックスを以てしてもですね、やっぱり高齢者が乗り降りするのは大変だということで、もうこういう方はですね、逆にバスは絶望的だと思うんですよ。幾らバスがワンステップ

とかノンステップいうてもですね、ワンボックスカーよりはまだまだもう少し体力がいるんですね、こういう方々がいるのならですね、やっぱりちょっとこれはバスと棲み分けて、我々やっぱり長さ9メートル、幅が2.5メートルの箱で商売させてもらってますので、やっぱり入っていけるところも限界がありますし、小回りも限界がありますので、そういう物理的などころではですね、やっぱり mobi さんのような小回りの利くものとの共創は、共創というのは共に創るという意味の共創で、必要だと思っております。

土居会長：

ありがとうございます。そういう意味ではなんかちょっと考えたらその限られたパイの奪い合いみたいなイメージなんですけども。そうじゃなくて、要は新たなニーズを掘り起こすとともに、そのドライバーとかの不足してる部分を少しでも多くの人に乘ってもらうような形で、上手に補完しようって、mobi さんと従来のタクシーとかバスっていうのが補い合うという方を目指すっていうなんかそんなイメージなんですかね。上手くいけばね。その辺一色さんよろしいですか。

はい、ありがとうございます。それではほかにこの関係よろしいですか。

それではご意見ないようですので、今回資料1-1っていうふうにありますこの活性化協議会として、今治市長にこの予約型乗合タクシー実証実験、この mobi の関係ですけども、こちらを継続して欲しい、mobi を運行するタクシー事業者への実証実験の継続要請をお願いしますというこの文章なんですけども、この要請につきまして皆さんの承認をいただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それではそのように継続の要請をするということにさせていただきます。

(報告1) 今治市地域公共交通計画の更新に係る基礎調査業務の実施について

土居会長：

続きまして報告事項に移ります。まず報告の1号、今治市地域公共交通計画の更新に係る基礎調査業務の実施についてでございます。事務局から説明をお願いします。

事務局 (白石地域政策局長(兼)課長)：

それでは、報告第1号、今治市地域公共交通計画の更新に係る基礎調査業務の実施について説明をさせていただきます。資料2をご覧ください。

目的にありますとおり、今治市地域公共交通計画、これは計画年度が令和2年度から令和6年度までのものですが、令和7年度の更新に向けまして、今治市の公共交通に係る現状と今後の課題を詳細に整理するための調査を令和5年度に実施するものであります。前年度であります、令和6年度が本格的な作業なんですけども、今回は前回策定から相当の年数が経

過していることと、途中でコロナ禍もありまして、社会的状況も変化がありました。また、それに伴いまして各種交通の利用者にも変化が出ているとか、また実証段階ではありますが、先ほど mobi のような新たな交通が施行されていますことから、現在の状況を的確に把握することが必要であるということ、今回の課題と考えております。

業務内容につきましては、5 のですね、業務内容 1 のアンケート調査、そして 2 番、利用者の移動実態の分析、3、交通事業者等へのヒアリング、これらを委託業者を通して解析したいと思っております。受託業者につきましては、一般競争入札におきまして、株式会社オリエンタルコンサルタンツ松山事務所、4 の受託事業者のところに記載の業者の方と契約ができております。

1 番のアンケート調査の内容ですけれども、現在どこのスポットでどのぐらいのアンケートをするかというようなことは打ち合わせ中でございます。

2 番の利用者の移動実態の分析ですけれども、アンケート調査で把握した移動特性ニーズにつきまして、このところ携帯電話会社とかの方で各種データをですね、ビッグデータと呼ぶものですが、携帯電話の GPS データ等の分析の情報をですね、携帯電話会社から購入できるようで、それらを委託業者が持っております。それらの情報、そしてアンケート調査等々兼ね合わせて、利用者の移動実態の分析をして参りたいと思っております。

最後になりますけれども 3 番目です。交通事業者等へのヒアリング。交通事業者やモビリティハブとなる使用施設等に対するヒアリングを行いまして、公共交通の現状や問題点、将来見通し等の現状を把握して参りたいと、以上 3 点を今年の大きな課題と思っております。

業務のフローに関しましては、6 番に記載のとおりでございます。工程としましては、3 月末の工期といたしまして、それまで協議を重ねて、作業を進めて参りたい。そのように考えております。説明は以上でございます。

土居会長：

ありがとうございました。それでは今の説明につきまして何かご質問ご意見等ございますでしょうか。

(異議なし)

(報告 2) 今治市におけるデマンド型乗合タクシー利用実績について

土居会長：

それでは、報告の第 2 号に移ります。先ほどからも少し話が出てましたデマンド型乗合タクシーの利用実績についてでございます。まず事務局の方から説明をさせていただきます。

事務局 (白石地域政策局長(兼)課長)：

それでは、報告第 2 号、今治市におけるデマンド型乗合タクシー利用実績についてをご説明させていただきます。今回は今年度 10 月末までの実績報告をさせていただきます。

資料の3-1、朝倉、吉海地域乗合タクシー利用実績をご覧ください。

まず、朝倉地域乗合タクシーの利用状況でございます。朝倉支所周辺エリアでは、徐々に認知度が上がってきておりまして、昨年9月から利用人数が20人前後で推移いたしております。そして今年度4月から10月も同程度の利用をいただいております。済生会今治病院便につきましては、6月と9月に同じ方がワールドプラザへ、10月は別の方が済生会今治病院までご利用いただいております。

続きまして、吉海地域の乗合タクシーの利用状況でございます。田浦地域ではどの月も150人前後のご利用がありまして、乗合タクシーがうまく地域に根づいているのではないかと私共では考えております。椋名地域では、田浦地域ほどの利用ではございませんが、一定数の利用がありまして、今年度は若干増加しております。

続きまして、資料めぐりまして資料3-2をご覧ください。チョイソコおおみしまの利用実績でございます。チョイソコおおみしまの利用者数は毎月徐々に増加しておりまして、認知度が上昇していることがわかります。それに伴いまして、月利用者数も増加しており、今年度に入ってから10月の月利用者数は、昨年度の約2倍で推移しております。引き続きまして、各種イベントなどでPRを行いまして、登録者数の増加を図っていきたくと考えております。

続きまして、資料3-3、玉川地域乗合タクシーの利用実績をご覧ください。先月10月から、玉川地域で新たに運行開始した乗合タクシーでございます。左上が運行区域になります。旧市内エリア行きと玉川地域内の移動の便がございます。10月の利用状況としまして、玉川地域内の移動は57人、旧市内エリア行きは93人、合計で150人の利用がございました。平均いたしますと、1日7人あまりの利用がございます。行き先としましては、玉川地域から旧市内エリアでは、山内病院とイオンモール今治新都市が多く、次いで片木脳神経外科、フジ今治店となっております。旧市内エリアから玉川地域行きでは、玉川地域のゴミステーションや集会所への移動が主になります。玉川地域内の移動では、同じ方のほぼ毎日の利用がありまして、ゴミステーション同士の移動が一番多く、次いで金藤内科、せせらぎ交流館、玉川福祉センターとなっております。運行状況といたしまして、稼働率は旧市内エリア行きが27.4%、玉川地域内の移動が23.8%となっております。平均利用人数は、旧市内エリア行きが1.4人、玉川地域内行きが2.0人、旧市内エリア行きで玉川地域内移動ありが、2.3人となっております。収支の状況です。10月の運送料が、タクシー運賃でございますけれども、220,300円、料金収入が50,200円で、以上を割りまして、運行収支率は22.8%となっております。以上でございます。

土居会長：

ありがとうございます。それでは今の資料3-1から3-2、3-3までにつきまして、ご質問、ご意見等いただきたいと思いますが、まず3-1の方からいきたくと思います。3-1の方を見ていただいたら分かりますように、朝倉の方が上の段になりますが、朝倉支所周辺の人数がこんな感じ、さらには済生会今治病院はもうほとんど利用がないという状況。一方で、吉海の方は、田浦地区はかなり利用がありまして、椋名地域についてもこういう形の利用

で推移してるということで、ちょっと両方、対照的に多い少ないということになってるんですけども。このあたりにつきまして、まずこの資料3-1に関して、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

松村委員：

いずれもこれ路線が廃止されたところだったと思いますけども、その路線バスがあった頃ってのは、比較は難しいと思うんですけど何人ぐらい乗っていたのか。

川田委員：

ちょっと今日詳しい数字持ち合わせてないんですけども、印象としまして、非常に朝倉支所、上朝倉間というのは、もう極端にご利用は少なかったもので、ちょうどこの令和5年実績の青い棒がございますね、大体この程度だったと思います。だから私から見たらそれぐらいだなという。ただ済生会がですね、これ事前に地元とワークショップとか開いた中で、やっぱ住民の方は済生会へ行くのが不便だというお声が出てた割に、いざ走ってみると、ちょっとこれ寂しいなという気持ちはしますね。

佐津間委員：

まずこの田浦地域なんですけど、私どもの田浦線のバスが廃止になってから運行が始まったと思います。大体この数字が160ぐらいで、30で割ったら5人ちょっとぐらい毎日乗られてるのかなと思いますけど、確か廃止した時は、1日往復で4人ぐらいのご利用だったので、バスの時よりは若干増えている喜ばしいことかなと思います。椋名地域なんですけど、人口的にももう少しいらっしゃって、利用が多いのかなと私は想像してたんなんですけど、思ったより田浦より少ないなという印象があります。以上です。

松村委員：

なんでお伺いしたかっていうと、路線バスを従来使われてたような方々がもしいらっしゃって、そういう方々が何かこう移動を諦めて、送迎とかそういうふうな形になってるとどうかな。それがどれぐらいのボリュームがあるのかなと思ってお伺いしました。朝倉にしても、田浦にしても椋名の地域についてもですね、およそ大体路線バスに従来乗られてたような方々がそのまま継続して乗られてたりとか、あとは田浦だとちょっと増えるかもしれないというような話だったので、そういう意味では、こういうような効果ってのが出つつあるのかなというふうには思います。

それとコメントですけども、できればですね、mobiさんのような資料とまでは言いませんけども、せつかくですので、どういうふうな手を打つべきなのかということも議論できるような資料を用意された方がいいんじゃないかなと。例えば、時間帯で何人とか、高齢者が何人とか、そういうようなデータに基づいて、次年度どうしようあしようとか、もうちょっと増や

すためにこうしましょうみたいな、そういうような流れになればいいかなと思いますので、できるだけそういうふうなデータを収集されて、データを取るために何かいろいろな労働が増えるってのは変な話なんですけども、従来のデータがあるのであれば、そのデータに基づいてどうしようというようなことを議論できるような資料を出していただくとよりよいかないうふうなことを思いました。

土居会長：

ありがとうございました。その他ご質問等まずこの資料3-1についてありますでしょうか。ちょっと私の方から川田さんそこにお聞きしてよろしいですか。さっきお話あったように、朝倉支所周辺エリアといいますか、朝倉の支所の方から上の方ですよね、今、この乗合タクシーが代替してるのが、その利用者は大体バスの時もこんな感じかなというのがあったんですけども。若干その気になってるのが、その朝倉線そのものなんですけどね、いったらその今朝倉支所、元のその朝倉村役場があったところから、市内の中心部というか営業所までの、今朝倉線走らせていただいているんですけども、その今の利用者っていうのはどんな感じなんでしょうか。

川田委員：

副市長さんおっしゃるようになりますね、令和4年3月に最も利用の少なかった上朝倉間は廃止させていただいて、少しでも運送の効率を上げようと思ってやってきてるんですが、やはり依然ですね、この残された朝倉支所、市内間も非常に低調な利用で推移しております。実は10月の下旬に1週間人員調査しますと総利用者数で約260名、これ便数で割りますとですね、1便当たりが2.7名という、非常に低調な利用です。元々朝倉線というのは他の路線と違っていて、沿線にあまり大きな病院がございません。例えば済生会とか、県病院とか、そういう中核になる病院がないところへ、学校もあまりというか、もう今治工業高校が立花にあるぐらいです、そういう学校関係も少ないという非常に不利なところもあるんですけども。逆にこの路線の当然ながら運送収入も年々下り坂です。先般の令和5年度の補助金申請に係りまして、運送収入は412万円ほどに落ちております。先々の路線維持に関しては、非常に危機感を抱いておる路線であると、この場でご報告させていただきます。

土居会長：

ありがとうございます。朝倉線ってそれぐらいしか乗ってない状況という。バスにしてそんな感じってことですね。ということは、もう近い将来なのか遠い将来なのか、ひょっとしたらその朝倉線そのものが、こういう乗合タクシーでカバーしていくことも考える時期が来るかもしれないという。2.7人は1日2.7人、いや、1便か。1便2.7人。

川田委員：

期間中に最大乗った便でも 11 名です。乗ったり降りたりで 11 名ですから、完全に 11 名が一つのバスに乗ったわけではないと。それが 1 週間の最高値ですから。ちょっと私どもが今、広く四国中央市までの間で走ってる路線の中では、もう非常に低調な路線と言っても過言ではないと思います。

土居会長：

そういうところをいつまでもバス事業者として、やっぱり維持していくってのは大変でしょうから。今治の中だけじゃなく、その東予全域やられてますから、その辺全体見ながら、やっぱり不採算のところは少し何か方法を考えるということにはなってる。

川田委員：

そうですね、特にその乗務員不足はもう本当に年を追って深刻になっておりまして、ちょっとお時間よかったらご披露したいのが、実は今治営業所、そこに正社員の運転手が 39 名おります。日に必要な運転手は 36 名なんです。余裕は 3 名しかない。いや、これよく運営できますねという話になるんですが、実はそれプラス、一度定年で辞めて嘱託で来られてる方が 12 名、今日現在おられるんです。その方のお助けをいただきながら何とか運営できてる。ただ、その嘱託運転士 12 名のうちの 6 名はもう 70 歳超えております。あと 3 年来られるか 4 年来られるか、この方々が本当にリタイアするときには危機的な状況になりますので、人員計画も今から綿密に立てていかないと。明日はバスが走りませんというような最悪の事態が訪れないとも限りません。以上です。

土居会長：

厳しい状況ってのは十分分かりました。この 3-1 についてはほかにありますか。

それでは次、資料 3-2 の方に移ります。チョイソコおおみしまの関係なんですけども、こちらにつきまして、何かご意見いただけたらと思うんですけども。チョイソコおおみしまで、今直接使われてるとかっていうのは、どなたが使われてるのかな。今日来られてないんですよ。何かご意見ありますでしょうか。佐津間さん、やっぱり一番見られてるんだと思うんですけど。

佐津間委員：

はい、大三島に本社がありますもので、よくバス、タクシーをチョイソコが走ってるところはよく見かけさせてもらってます。まず、当社の出走線という路線がなくなった部分と、あと盛地区、この地図で言いますと右上の地域ですね、こちらを中心に走ってるのじゃないかと思うんですけど、この地域別ですね、人数とか人の動きといいますか、mobi さんのようなここからここに動いて、みたいなものがすごく私の興味でちょっとあったりするんですけど、そういった統計とかはとられてるんでしょうか。

事務局（鳥生地域政策局課長補佐）：

ちょっとですね、こちらデータとしてはあるんですが、すみません、本日ちょっとそこまで準備ができておりませんので、また事務局の方で確認させていただいて、またご提示させていただいたらと思います。申し訳ございません。

土居会長：

感覚としてどこが多いとかなんとなくこうありますか。

事務局（鳥生地域政策局課長補佐）：

ざっくりした話でいきますと、やはり島内の移動で一番多いのは、お買い物のスポットへの移動というふうに聞いております。例えば、宮浦のショッパーズさんであったりとかですね、上浦のAコープさんであったりとか、そのあたりを中心としたお買い物、そして次に多いのがですね、マーレグラシアさんとかそういったちょっとレジャー施設であるところのリピータ的なご利用っていうのが、多いというふうに聞いております。ただ、島内ですね、通院の関係はあまりご利用が少し低調であるというふうに伺っております。以上でございます。

土居会長：

そんな感じで、感覚的にも合ってますか。

佐津間委員：

そうですね。あとは、今までバスが動いてなかった盛地区とかそちらの方も何割とか、感覚で結構なんですけど、難しいですかね。

事務局（鳥生地域政策局課長補佐）：

そうですね、盛地区につきましてはですね、ちょっとこれデータがあまり新しくはないんですが、やはり大三島の島内でのご利用っていうのは、宮浦地区が圧倒的に多くてですね、盛地区は、井口、甘崎に次ぐご利用ということなので、やはりバス路線が廃止されてからちょっと期間が経ってますので、あまりご利用が盛んではないというようなイメージをもっております。以上です。

佐津間委員：

ありがとうございました。

土居会長：

すみません、盛地区っていうのは、この地図でいうと一番上のとこなんですけども、もうそ

ここらだと、下のショッパーズというか買い物に来られる方が多そうになっていく感じですか。

事務局（鳥生地域政策局課長補佐）：

そうですね。全般的にやっぱり買い物の移動っていうのが多いということでございますので、盛地区であれば、同じ上浦町内の井口にあるAコープさん、それと大三島町内の先ほどおっしゃってありましたショッパーズさん、その辺りのご利用が多いというふうに聞いております。

土居会長：

もう一つ盛地区といえはこの島、盛の北側、大久野島とかうさぎで有名なところがあったり、観光地があって、そことフェリーかな、通ってるんですけど、その観光客の人が使ってるのかということは何があったりするのでしょうか。

事務局（鳥生地域政策局課長補佐）：

ちょっとすみません、詳細なデータは今持ち合わせておりませんので、こちらは何となくのニュアンスでお答えさせていただきますと、やはり観光客の方につきましても、定時定路線の便とかでもございませんので、まずチョイソコを利用するとすると、チョイソコに一旦登録をする必要があると。そこらも含めまして、あまり島外の方のご利用っていうのは低調であるというふうに伺っております。やはり一番多いのは、もう元々の島内の住民の方の利用が多いというふうに聞いております。以上です。

土居会長：

はい、分かりました。一見さんはなかなか利用登録ができてないのでということなので、その辺りひょっとしたら今後改善すべき点なのかもしれないと思いますけども。あと、この資料3-2についてはよろしいですか。

それでは次、資料3-3に移らせていただきます。新たに玉川地域でのサービスを実証的に始めてるんですけども、今回はかなり多くの乗降場所というか停留場所を設定して運用してるんですけども、こちらにつきまして何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。どなたからでもお願いします。この中でどなたか玉川ゆかりの方っておられますかね。玉川関係の方おられませんかね、今日は。じゃあ、改めてその事務局にお聞きするんですけど、この今回こういう形でちょっとやり方を変えてみたっていうのは、その背景というか、どういうことでこういうことに始めてるっていうのは、ちょっと簡単に説明してもらっていいですか。

事務局（白石地域政策局長(兼)課長）：

玉川地域での新たな運行に関して、今までとはちょっと違ったところがあります。それは、日頃のゴミを出すところというふうなスポットを、たくさん停留所、乗降場所というふうにと

りまして、他の、吉海とか朝倉地域よりも乗降の場所を多くとったということがあります。これは、チョイソコで私たちが学んだといいますか、チョイソコでいっぱい停留所を使っていたので、それが皆さまの利便性に繋がるのではないかというふうなところから、このように乗降スポットをたくさん取ったということがあります。あと、事前に山内病院といいますか、イオンモールのところまでといわず、山内病院もうちょっと下側のところまで、山内病院に行きたいとかいうふうなところを、ご希望をですね、行きたいところという点でそういうふうなことをお聞きしましたので、そういうふうなところを入れて実際に運行しましたところ、そのとおりの結果というふうなデータも出ていますので、やはり他のところに関しましても、乗降スポットを増やしていくような改善、そして皆さまが行きたいところをもう一度、聞いてみるといいますか、運行し始めた現段階で、もう一度アンケートなり、希望を聞いて、行き先の再編をする必要があると。そういうようなところを、今1ヶ月の玉川地域の利用が比較的、ややまあ、感覚的なものですが、他の乗合タクシーの地域と比べて好調かなというふうに感じるところもありますので、そのようなところを改善して参りたいと、そのような印象を持っております。

土居会長：

ありがとうございました。ほかにご意見、ご要望でも構いませんけど、何かありますでしょうか。

一色委員：

玉川地域、まだ運行を開始して1か月なので、まだこれからかなというふうに思うんですけども、先ほど事務局からもありましたように、停留所というか、乗り場所、降り場所を細かく設定されてるっていうのは、停留所まで行くのがしんどいという方にとってはいいのかなというふうに思います。エリアによって色々地形も違うと思いますので、その地域の地形に応じて柔軟に対応できるというのは、この玉川地域のいいところかなというふうに思いますので、今後ぜひ、先ほどお話ありましたように、住民の方に知ってもらって、広報ももちろんですけど口コミで乗って見たらよかった、意外と便利だったというような形で広がっていったら、より良い形になるのかなというふうに思いました。そういう意味で、先ほどチョイソコで学んだというお話ありましたけれども、同じく先ほどの大三島についても、停留所を細かく設定できると思いますので、そこのところで利用がもう少しというふうなことであれば、改めて声を聞いて、停留所を増やすとか、いらぬところは整理するというのも含めてやっていただくと、より効率よく、皆さんのニーズに合った形で、うまく効率よくできるんじゃないかと思っておりますので、今後またよろしく申し上げます。

土居会長：

ありがとうございました。玉川エリアっていうのは、なかなかその買い物するところがなく

て、買い物するときにこれまでだとイオンモールでありますとか、フジ今治店の方まで病院に通いがてらちょっと行ってみたり、帰りに寄るとかっていう利用が多いように聞いておりました。実は、今日の午前中にフジ今治店の竣工式がありました。ということで、フジ今治店、非常に新しく綺麗になって入りやすくなって、おそらく今週末ぐらいからグランドオープンだと思いますので、またその辺り、多分玉川からも利用の方多くなるのかなという期待はしてるんですけども。

ほかに何か要望、ご意見ございますでしょうか。

(異議なし)

それではほかにないようですので、こちら報告事項2になりますが、今治市におけるデマンド型乗合タクシー利用実績の報告、終わらせていただきます。

以上で、本日予定しておりました議題すべて終了をいたしました。それでは事務局にお返しします。

4. 閉会

地域振興部長：

以上をもちまして、令和5年度第3回今治市地域公共交通活性化協議会を終了いたします。長時間にわたり、誠にありがとうございました。